

タウンリー Ⅱ サイクル劇 (V)

第四演目 アブラハム⁽¹⁾

〔登場人物 アブラハム、カミ、イサク、少年一、少年二、天使〕

(1)

アブラハム カミよ、本当の神よ！

われらの呼びかけを聞き入れてください——

あなたは最善の方でいらっしゃるのだから。

すべてのものに比べて、最高の助け手でおられる方、

もっとも力あふれる主よ、あなたに向かって祈ります——

慈愛の油を⁽²⁾いつの日にか降らせたまえ。

このわたしに、これからの日々を待つことなどないのでしょうか？

橋 本 侃

〈写本右十三頁〉

たとえばそうであっても、ぜひ待ちたいと思います。

(2)

全能の主よ、慈しみをお与えください！

主がこの世を造られて以来、長い日々が経ちました。

ユダヤの長老たちはどこにもいない。

これは考えてみれば不思議なことだ。

アダムがイブに同意して、

あの林檎をほおっておけなくて、食べてしまったからは、

あれこれ思いつくだけの知恵があったにもかかわらず、

あのようなことをしでかしたので、アダムはひどい目にあっただ。

(3)

楽園から出るように命じられ、

悲しい顔つきのアダムは嘆きながら出てゆき、

その後、この世に長いこと生きた――

三百年⁽³⁾以上もの間だ。

だが、悲しみと根強い苦しみのうちにあり、

毎日、ごたごたが続いた。

子供たちは絶え間なくアダムを怒らせた――

カインがともかわいがっていたアベルを殺してしまったのだ。

(4)

その後、信心深く、善良なノアと

細君と三人の子供たちは、

洪水ですべてが水浸しになった時に、救われた。

目にするのも不思議なことであった。

その後、ロトがソドムから逃れる時、

三つの都市が焼⁽⁴⁾け落ちたのに、命拾いをしたが、

結局は、わたしの主を怒らせたので、

主の力によって罪に復讐された。

(5)

われらの長老たちのことと、

これまでに起こった不思議なことどもを思う時、

この心にはなんの喜びも沸かず、

慰めてくれるものはきれいになくなってしまふ。

ああ、どのようなことをしたら主の僕^{しもべ}になれるのでしょうか？

確かに、生を受けて、これまで百年も色々のことを目にしてきました。

実際にそうだ！ 主が直ぐにでもしかるべき時を見せてくれるように願います。
なぜなら、そろそろその時かとわたしには思えます。

(6)

ところが、アダムは地獄へ行ってしまう、
多くの日々が経った。

そして、われらの長老たちの一人ひとりが皆、
おなじように地獄へ行ってしまう、

ついには、神は彼ら皆の嘆き声を聞かれるはずだ。

今こそ、カミなる主よ、助けてください！

なぜなら、確かに、それより良い道を知りませんし、

神以上に、より良くできる方はいません。〔神が山車の上部に現れる。〕

(7)

カミ アダムとその親族を助けるつもりでいる、

もし、彼らに愛と忠誠を見出すことができ、

わたしにとって誠意を尽くし、

そのおごりと罪をおしまいにすることができるならば。

わたしの家来を見つけて、試してみよう、

アブラハムは信頼に値するかどうか。

確かな方法を使って、あの者を試してみるつもりだ、

わたしに対する愛において真実かどうかを。

(8)

アブラハムよ！ アブラハム！

アブラハム あれは誰だ？ 良く聞いてみよう！ どれどれ、見てみるか！

わしの名前を呼ぶのが聞こえた。

カミ わたしだ。気をつけてわたしの言うことを聞きなさい――

わたしはお前の父アダムと

すべての者たちを、それぞれの位階に従って、造った。

アブラハム あなたのみ旨をお聞きして、

それがなんであれ、実行する用意ができております。

(9)

カミ 慈しみを求めるお前の叫び声を聞いた。

信心深い祈りがわたしを捉えた。

わたしを愛しているのなら、急ぐように気をつけ、

幻想の土地⁽⁵⁾へ行き、

その地に三日留まるように命じる。

息子イサクを連れてゆき

生け贄の毛物として捧げよ、

殺すのを避けることのないように気をつけ、

(10)

その地でイサクを焼き尽くしてあなたの捧げ物としなさい。

アブラハム ああ、玉座のおられる主よ、あなたが愛されますように！

主よ、わたしの上にあなたの聖なる手をかざしてください。

あなたが命じられたことは必ずいたします。

どの土地においても、われらの主が祝せられ、

このように直ぐに主がその僕を訪れますように。

この事を準備したいと思います――

遅れて得るものはなにもないからです。〔神が退場。〕

(11)

主のこの命令を果たさなくてはならない、

たとえ、この心臓が鉛のように重くなったとしても。

主のみ旨に従わないことなどすべきではない。

いいや、それならむしろわたしの子が死んだほうがいい。

命じられたことが、良いことであれ悪いことであれ、いかなるものであっても、

どの場所においてもなさねばならない。

妻と息子二人ながらに殺すように命じられても、

お考えに反するようなことをするつもりはない。

(12)

イサクにはわかる、どこにしようが、

今度ばかりは怯えるに違いない、

危険な目にあっていることが分かれば。

息子のイサク、どこにいるか？

イサク お父さん、ここです、ほら、直ぐにお役に立てますよ。

直ぐにそちらへ行きます——

愛しい父よ、あなたをとて愛しています。

アブラハム そんなに愛していてくれるのか？ どのくらいなのかぜひとも知りたい。

(13)

息子よ、言葉どおりに、わしを愛しているか？

イサク そのとおりですよ、お父さん、心から愛しています、

今までに創造されたすべてのものよりも。

ぼくのためにも、神がお父さんの命を長く、健康に保ってくださいように！

アブラハム お前のように愛らしい子どもがいる人なら

必ず喜ぶはずだ。

この愛らしい顔を見るとわしの心は喜びに溢れ、

何回も何回もそうなるのだ。

(14)

息子よ、家に帰りなさい。そして、直ぐに戻っておいで。

お母さんに、わたしが急いで来ると言っておくれ。

さあ、行きなさい——神がお前を守り、祝福してくれますように！〔ココデ、いさくは父ノモトヲ去ル。〕

あの子が過ぎて行って良かった。

この場所にちょうど一人になったので、

この胸が張り裂けるまでもが言える！

すべてのことが旨く行っているのなら嬉しいが、

しまいには、あれを実行しなくてはならない。

(15)

それに、わたしが気をつけることは良いことだ。

注意していることはとてもいいことになるだろう。

幻想の土地はとても遠い。

三日目の日が終わるまでにはそこへ行っていなければならない。

必要ならば、わしの驢馬を連れてゆこう、

大小にかかわらず、旅の必需品を運ばせよう――

息子を近い所では殺せないだろうから。

ならば、剣を一振りを持ってゆこう。

急いで旅の準備をし、

今晚、旅立とう。

真実、イサクがあんなにもかわいい子でなく、

また、自分の子どもでなかったとしても、

たとえイサクがわたしの正当な世継ぎであって、

わしの命が終わった後ですべての財産を所有することになっていても、

神が命じたことは必ず成し遂げなくてはならない。

反対すべきなのか？ いいや、絶対にそんなことはできない！

イサクよ！⁽⁶⁾

イサク 父上、なんですか？

アブラハム

用意ができたか確かめなさい！

息子よ、お前とわしの二人は、

町から郊外へ出なくてはならない、

遠い郊外で奉獻をするために、

ある種の大義の数々と理由もあつてのことだ。

燃やし木と火を急いで携えなさい。

丘と谷を登り降りするので、

息子よ、お前は驢馬に乗れ、わしは歩いて行く。

(17)

必要とする物を忘れないように気をつけなさい。

さあ、愛おしい者よ、用意をしなさい！

イサク たった今言われた事を済ませ、

命じられたことならいつでも果たす用意ができています。

アブラハム わしの愛しい息子よ、心して恐れるな、

大きな愛しさを持って家に戻るぞ。

往路も帰路もわしが先導する。

さあ、息子よ、来て、わしの祝福を受けなさい。

(18)

〔家来の二人に〕 お前たち二人はこの驢馬と一緒にここで待ちなさい、なぜなら、イサクとわしは向こうの山へ行くつもりだから。

あの山はとても高いので驢馬では行けない。

それゆえ、お前たち二人はここでずっと待つように。

少年一 言われたことをこばみません。

ご命令を果たす用意ができています。

少年二 ぼくたちに何が起ころうとも、

ご命令を必ず果たすつもりです。

アブラハム 二人共に神の祝福を受けなさい。

お前たちを長いこと待たせることはしない。

少年一 ご主人さま、われらはここでお待ちしています。

この場所から外へ出るつもりはありません。

アブラハム 子どもたちよ、お前たちはいつもわしにとって愛しい者たちだ。

神が二人を災いからいつも守ってくれるように祈る。

少年二 ご主人さま、教えたとおりにするつもりでいます。

アブラハム イサクよ、さあ、わしたちは二人きりになったぞ。

(19)

かなりの道のりを行かなくてはならない――

思ったよりも遠いからな。

この事が終わる頃までには

楽しく、また、大いに喜ぶことになるだろう。

ご覧、わたしの息子よ、ここがくだんの場所だ。

イサク 薪と火はぼくが持っています。

時間があれば教えてください、

焼き尽くす捧げ物の毛物はどこにいるのですか？

(20)

アブラハム 息子よ、隠しておくのもこれまでだ――

そうしようという気持ちはこの胸に入った。

わしにとってお前はいつも忠実であった、

わしの意向を満たそうとしていた。

しかし、お前を殺さなくてはならない。

しかも、わしが意図したものとして、しなくてはならない。

イサク 心も重く、気も進みません――

このように急に命を取られるのでは。

(21)

アブラハム イサクよ！

イサク 父上、なんでしょう？

アブラハム

ここへ来るように命じる。

何が起こつても、お前を殺す。

イサク ああ、父よ、慈しみを！ 慈しみを！

アブラハム 口にしたことはしないわけにはいかない。

だから、この行為をおとなしく受けるのだ。

イサク ああ、良い父上、お待ちください！

お父さん！

アブラハム なんじゃ、息子？

イサク ご意志を果たす用意ができています、

どこへ歩いていかれようと、馬に乗ってゆかれようと。

(22)

ご意思を理解できるとしたら

罪を犯したので、罰として鞭打たれることになるはず、ということです。

アブラハム イサクよ。

イサク なんでしょう、父上？

アブラハム 良い息子よ、じっとして動くでないぞ。

イサク お父さん！

アブラハム なんじゃあ、息子？

イサク あなたの子孫のことをお考えください！

ぼくは罪を犯していません！

アブラハム 確かに、悪いことは何もしていない。

イサク それなのに殺されるのですか？

アブラハム そのように約束してしまった。

イサク 父上、助けとなるようなことがあるのでしょうか？

アブラハム 言うだけの理由は何もない。

イサク 慈しみを願います。

アブラハム 邪魔立てはできない。

(23)

イサク ぼくが死に、塵に閉じ込められた時には、

あなたの息子は誰もいないのですよ。

アブラハム ああ、主よ、このような日を生きて目にするととは！

イサク 父上、誰もぼくを罪から救うようなことはしてくれません。

アブラハム 息子よ、お願いだ、そんな事を口にするな。

イサク ぼくを殺すのですか？

アブラハム そのようにしなくてはならない。

じっと横になったままだいるのだ！ 打ち据えてやる！

イサク 父上、一言言わせて――

アブラハム わしの愛し子よ、もう逃げられぬぞ。

(24)

イサク あなたの持つ光る刃がきらきらするので

死ぬのではないかと体が震えます。

アブラハム それなら、うつぶせにしてやる――

そうすれば、一撃するのを見ることはないだろう。

イサク 悪いことはしてません、お父さん。悪いことは何も口にしていません！

アブラハム そのとおりだ、わしにとってはどんな悪いこともしていない。

〈右十五頁〉

イサク それなのに、このようなひどい目に遭わなくてはならないのですか？

アブラハム さあ、良い息子よ、そのような言葉を口にするな。

イサク あなたをいつも愛しています。

アブラハム

わしもお前をいつも愛している。

イサク お父さん！

アブラハム

なんだ、息子よ？

イサク

今こそ言わせてください——

母を愛していますから、お父さんがぼくを愛していることを見せてください。

アブラハム

お前が嘆いてもなんの助けにならないだろうが、

わしが近寄るまでじっと横になっているのだ。

小さなことが忘れていた——

ヤツがわしに向かって哀れな様子でものを言うので、

わしの両方の目から涙が溢れ落ちる。

(25)

世のすべての喜びよりも欲しいのは

あれが一度でも息子としての本分を尽くしていないところをむしろ目にするのであった。

言うな、もう口を利くな！

だが、務めを怠ったのを目にしたことはなかった。

わしはヤツのせいで死ぬか拷問を受けるほうがいい。

このように殺すのは大きな罪だ。

あれがあんなにも哀れな言葉を口にしたのだ！

わしら二人が別れ別れになるとは非常にづらいことだ――

わしの心が忘れてしまうことなど決してないだろう。

(26)

あれの母親に言ったらしいのか――

「あの子はどこ？」と直ぐに聞くだろう。

「家出したよ」とでも言えば、

直ぐに応えがあるだろう、「そんなことはありません、あなた！」と。

それに、妻をびっくり仰天させるのが怖い。

なんと言ったらいいか判らない。

あれは横たわったまま、本当にじっとしている――

わしがゆくまで、びくとも動かぬつもりでいるのだ。〔神が山車の上部に現れる。〕

(27)

カミ 天使よ、全力で急いでゆけ！

アブラハムのところへお前を派遣する。

イサクを殺すな、と言いなさい。

生かすのだ、焼き尽くしてはならない。

アブラハムはわたしの命令に背くことはしない。

ゆけ、今ある決意を捨てさせるのだ。

もう一度、一緒に家に帰るように命じなさい。

わたしにはアブラハムがどう応えるか良く分かる。

(28)

天使 主よ、喜んでまいる用意ができております。

ご命令を敬うようにさせます。

急いで飛んでゆき、

あなたにはいつなんどきも従順に従うように、

み旨とみ名をこの広い世界のすべてのものにまさせて

たたえるようにさせましょう。

そして、あなたの僕の所へ今、急いでゆきます、

善良で、真実のアブラハムのもとに滑空してゆきます。

(29)

アブラハム だが、泣くのは止めよう、

この奉献を済ますまでは。

嘘偽りなく、奉献は必要なのだ。

これに関わって無駄口をあれこれ叩いても、

それだけ余計にわしの悲しみも増えるだけだろう。

あれの方へ顔を向けるのが恐ろしい。

素早く走って行って、

あの場所で、横たわっているままで殺してしまおう。

(30)

天使 「アブラハムを掴まえて」 アブラハムよ、アブラハム！

アブラハム

今の声は誰だ？

気をつけろ！ さあ、殺しにゆくのだ！

天使

やめろ、さあ、やめるのだ！

お前に良い意向を授けようとして来た。

それゆえ、その手を止めるように命じる。

アブラハム そんな命令を出すのは一体、誰だ？ ここにはイサクしかいないのに。

天使 それは神だ。そして、お前の奉献にはこの毛物を送られた。

アブラハム 後で、神と話し、

本当は何をするように命じられたのかを確かめよう。

(31)

天使 神が促したのはお前の従順さと、

お前の善意だ。

息子に危害を与えてはならないというお望みだ――

神が祝福をお前にお与えになった。

アブラハム しかし、おっしゃったことが本当のですか

あなたはそのことを良くご存知ですね？

天使 「そのとおりだ」と言おう。

アブラハム 善意の泉である主よ、ありがとうございます――

この奉獻については、すべてをなしにしていたきました。

(32)

あなたとお話する時間がありません、

わたしの愛しい息子に声を掛けるまでは。〔天使が退場。〕

わしの良い息子よ、神の祝福を与える、

お前に復讐する意思はわたしにはない。

さあ、お前の高貴な顔を上げて、立ち上がりなさい。

イサク 父上、ぼくは生きていてもいいのですか？

アブラハム

そのとおり、これがその印だ。〔接吻スル。〕

息子よ、お前はとても厳しい恩恵から逃れることができた。

焼かれて、体をばらばらにされるところだった！

(33)

イサク でも、お父さん、ぼくを殺さないのですか？

アブラハム そうだ、息子よ、確かだ！

イサク

そうであるなら、嬉しいけど――

良き父上、刀をもう一度振り上げてみてください。

アブラハム いいや、そんなことは絶対にしない――息子よ、おびえるな。

イサク すべてが許されたのですか？

アブラハム

そのとおりだよ、息子よ、確かだ。

イサク 父上、恐怖のあまり、もう少しで気が狂うところでした。

〔不完全なまま演目が終了。「アブラハム」の結末と次の演目の「イサク」の初めの二頁がそれぞれ欠損している。〕

第五演目 イサク⁽⁷⁾

〔登場人物 イサク、ヤコブ、エサウ、レベツカ〕

イサク 息子よ、そばに来て、接吻しておくれ、

お前のおいをかけるように。

わしの息子のおいは⁽⁸⁾

まるで花の咲く野原や蜜蜂の巣のようだ。

わたしの息子のエサウよ、どこにいる？

ヤコブ〔エサウに代わって〕お父さん、ここにいて、あなたの祝福を求めています。

イサク〔相手がエサウとして〕わしの父がわしに授けた祝福を

天の神とわしがそちに授ける。

神が大量の葡萄酒と油と小麦を

授けてくれますように！

そして、お前の子どもたちの皆が、

大きな子も小さな子も、お前をあがめるようにさせなさい。

お前を祝福する者なら誰でも祝福されますように！

〈写本右十六頁〉

お前を悩ます者なら誰でも悩まされますように。

さあ、これで、お前はわしの大きな祝福を得た。

お前の子孫をすべて愛しなさい。

さあ、行くべきところへ行きなさい。

ヤコブ 父上、慈しみをいただきます、そのようにいたします。〔退場。エサウが前へ出る。〕

エサウ お父さん、ぼくが狩でしとめたものを受け取ってください、食べてください。

その後で、ぼくを祝福してください。

イサク そう言うお前は誰だ？

エサウ ぼくです、息子のエサウです――

あなたに鹿肉を持ってきました。

イサク さっきまでここにいて

鹿の肉汁⁽⁹⁾をわしに持ってきたのは誰か？

たくさん食べたので、その者を祝福した。

だから、その者は体の節々まで祝福されたことになる。

エサウ 何と悲しいことか！ 泣き叫びたいくらいだ。

イサク お前はヤコブによってだまされたのだ、

お前自身の肉親の、同じ先祖を持つ兄弟によって。

エサウ ぼくのためには弟とは別の祝福が残っていないですか、ヤコブに授けた以上の祝福は？

イサク そのような別の祝福は持ち合わせていない。

しかし、お前との契約に従って、

神は天の露と大地の果実をお前に与えるだろう。

これ以外のことを言うことができない。

エサウ ああ、なんと悲しくも、嘆かましいことか！

あの裏切り者ヤコブに会うことができれば、

ぼくの父たちの日々は嘆き声と共に来るだろう、

ぼくの母たちの日々も同様だ。

ヤツに会うことができれば、殺してやろう。〔退場。レベッカが前に出る。〕

レベッカ イサクよ、わたしも死んでも同然です、

もしもヤコブがヘト族の者と結婚したら。¹⁰

わたしはヤコブをアランの地に送りましょう、

そこには兄のラバンが留まっています。

そうなれば、平和のうちにその地で任務を果たせるでしょう

イサクの兄の怒りが鎮まるまで。

いちどきに、二人の息子を 失うことなどできない！ そうでないほうがいい。

イサク 妻よ、お前の言うことは真実だ。

ここへヤツを呼び、言ってやろう、

どこの場所ならエサウを避けられるかを、

また、われらの二人ともを傷つけることを誓うのはどうかを。

レベッカ 息子のヤコブよ、お前の父とわたしは

お前と話をしたい。さあ、わたしたちを助けておくれ。

お前は国から逃げ出さなくてはならない――

エサウがお前を殺しかねないから。

ヤコブ 一体、どこへ逃げたらいいのですか、母上？

レベッカ メソポタミアへ――

わたしの兄とお前の伯父がいる。

二人はヨルダンの川沿いに住んでいる。

そして、その地で一緒に住むことができるなら

わたしのもう一人の息子エサウの所へゆけ。

兄のことなど忘れてしまいなさい、そうすれば兄の怒りも死んでしまう。

ヤコブ お父さん、ご忠告に従って、わたしは行きます。

イサク 息子よ、そのとおりだ、お母さんが言ったようにしなさい。

さあ、われら二人に接吻して、旅立ちなさい。〔一人ニ接吻スル。〕

ヤコブ 良い一日を、父上に母上！

イサク 息子よ、神がお前を罪と恥から守ってくれますように。

レベッカ 善良な人にふさわしく、神が加護を与えられますように。

そして、お前にとって嬉しい知らせをわたしにも送っておくれ。

〔ココニ、「いさく」ガ終ワリ、次の「やこぶ」ニ続ク。〕

第六演目 ヤコブ

〔登場人物 ヤコブ、カミ、ラケル、レア、エサウ、天使（カミ）〕

ヤコブ 主なるカミ、わたしを助け、

わたしにしかるべき道を

メソポタミアまで進ませてください――

今いる場所に来たことはありません、

この国のこの地に来たことがないのです。

天の主よ、わたしを助けてください！

なぜなら、この通りで、

骨を痛めたし、足を痛めました。

陽は沈んだので、するには何が一番いいのだろうか？

彼女に一晚中休むように提案しよう。

わしの頭の下にこの石を敷いて、

一晚の休みを取ろう。「神が山車の上部に現れる。」

カミ ヤコブよ、ヤコブ！ わたしはお前の神だ。

祖先アブラハムの神、

父イサクの神だ。

彼らゆえにおまえを祝福しよう。

お前が眠ろうとしているこの土地は

お前とお前の親族に与えよう。

お前の種を増やし、

塵のように厚く大地に広がるように。

お前の親族は広く広がるはずだ、

東から西へ、どの方角にも、

南から北までも。

わたしが口にしたことはすべてを実行する。

そして、お前の子孫のすべての民は

お前の祝福によって祝福されるであろう。

ヤコブよ、いかなる恐れも持つな。

お前に着物を着せ、お前を食べさせよう。

お前の行く道を安全なものにしよう。

朝早くから夜遅くまで、いつもお前を助けよう、

そして、お前にすべての安寧と安全のうちに

お前の国にお前を再び帰えらせよう。

しそこなうことは何も無い、と確信しなさい、

語ったことは語ったとおりにわたしはするつもりでいる。〔ヤコブを起す。〕

ヤコブ〔夢カラ覚メテ〕⁽¹⁾ ああ、主よ、今の夢にどんな意味があるのでしょうか？

わたしは夢の中で何を聞き、何を見たのだろうか？

神が梯子に身を預け、

わたしに話しかけた——嘘ではない。

そして、ここには今や神の館と天の門以外のなものも、

他の門は何もない。

主よ、この場所のなんと恐ろしいこと！

そこにわたしの頭を横たえ

神を愛しながら、この石を持ち上げ、

油をその上にひたたらせよう。

すべてを知る天の主、

あなたに向かって、わたしはここに約束をする――

もしも、肉と食べ物をわたしにくだされ、

しかるべく、体に着物を着せてくれ、

古里の親類縁者のところへ帰えしてくれたなら、

自分が選んだ道を通してゆきます、

傷つかず、安全に。

不動の心をもってあなたにお約束します、

あなたはわたしの主であり神であり、

そして、わたしヤコブは、あなたの真実の従者として、

その印としてこの石を今日、持ち上げます――

聖なる教会を永遠に保持します。

そして、わたしのために新たなものになるすべてのものを

律法上の十分の一税としてあなたに納めます。〔ココデ、やこぶハあらんカラ故郷ニ入ル。〕

ああ、わたしの父よ、天の神よ、

あなたの声をおして、わたしに語られた、

アランに住んでいた時に、

もう一度、その土地へ帰らなくては――

わたしが生まれ育った土地へ。

主よ、あなたはわたしに前に警告してくださいました。

アランに向かう時に

わたしの杖を携えて、ヨルダンを通り過ぎた。

そして、今や再び故郷に来た、

わたしと一緒に二個師団と。

主よ、あなたはわたしに良くしてくれると約束された、

わたしの種を海の砂のように増やすと。

主よ、エサウの復讐から、

その力によってわたしを救ってくれる、

昔の怒りのためでなく

一家の子どもたちと共に、エサクはその母親を殺しかねない。

ラケル ご主人さま、われらの苦しみは多岐に渡っています――

われらの伝令がわれらに語ったところによれば、

四百人、それ以上の軍隊を使って、

エサクはあなたも殺すつもりでいる、と。

ヤコブ ラケルよ、そのとおりだ。しかし、たくさんの毛物をいくつかの贈物として

ヤツにすでに送ってある。

おそろくは、われらの贈物を受け取る日が来るだろう、

そうすることで、ヤツの怒りは和らぐだろう。

われらの物はどこにある？ ヨルダンを越えた頃だろうか？

レア できるだけ、ご主人さま、行って、良くご覧なさい。「ココデ、家財ヲ調べ終ワツタ彼ト天使ガ相撲ヲ取ル。」

カミ 朝が明けた。わたしをもう放せ。

ヤコブ いいや、わたしは放しはしない。

でも、行く前にわたしを祝福してください。

できることなら、あなたを長く抑えていたい。

カミ わたしと話した証拠として、

今度はあなたの腿に触れよう、

そうすればあなたを余計に抑えることになるが、

あなたは痛みを少しも感じないはずだ。

あなたの名前は何か、わたしに言いなさい。

ヤコブ ヤコブです。

カミ いいや、今はもう「イスラエル」だ。

わたしに向かってあのような力を示すことができるのだから

地上の男はあなたの力に敵わない。

ヤコブ あなたの名前はなんですか？

カミ なぜあなたはわたしの名前を尋ねるのだ？

気に入るなら、「不思議にもすばらしい」という名前ならどうだ？

ヤコブ ああ、主よ、わたしを祝福してください！

カミ お前を祝福し、

十分に慈しみに充ちた存在にさせ、

お前にわたしの祝福をとこしえに与えよう、

主として、また、すべてのものの上に力を振るう存在として。

あなたの行く道を用意し、

社会的地位もうまく定めておこう。

恐怖を感じたら、わたしのことを思い出しなさい、

そうすれば、うまく護ってあげよう。

そして、わたしが言ったことを信じるように気をつけなさい。

さあ、さようならをしなくては。夜が明けた。

ヤコブ 今や、あたらしい名前を持つことになった——わたしは「イスラエル」だ。

この場所をペニエルと呼ぶことにしよう——

この土地で天の神と

顔と顔を見合わせたのだから。

ラケル ヤコブ、見て、報せがあります、

エサウがこの近くまで来ているのです。「ココデ、連隊ヲ三ツニ分ケル。」

ヤコブ ラケルよ、最後尾の大隊に位置を取りなさい——

あなたがうまく救われることを希望するからだ。

ヨセフとベンジャミンを呼び、

あなたから離れ離れにさせないようにさせよう。

もしものことだけでも

エサウが前もってわれらを皆ずたずたに切り刻むなら、

一番最後にいるあなたたちは、

〈左十七頁〉

急いで逃げたら、救われるかもしれない。「ソシテ、やこぶハえさうノ元ニ行キ接吻シヨウトスル。やこぶガ両膝ヲ折り曲ゲテ神ニ向カッテ祈リ、立チ上ガルト、えさうガやこぶノ胸ニ飛ビ込ム。」

主よ、あなたが約束されたように、あなたに向かって祈ります、
わたしとわたしが生み出す子孫を救われますように。

エサウ 弟よ、一族の元にようこそ、

そして、一緒に来たあなたの妻と子どもたちよ、

遠くの土地での暮らしはどのようなものだったのかな？

さあ、何かいい知らせをわたしに話さない。

ヤコブ 兄のエサウよ、

あなたの兵士たちがわたしを傷つけないのならば。

エサウ 「奴隷タチニ向カッテ」おお、なんたる！ 手を出すな！

良く見よ、わたしとあの男は友だちで、

ここで友情を果たすつもりだ――

それが神のみ旨だからだ。

ヤコブ 兄よ、そうであることを神があなたに報いてくださるように、

あなたの従者に接吻をすること。

エサウ いいや、そうではない、弟のヤコブよ、

お前にはまったく違う事を伝えよう――

運命によって、お前は今やわたしの主である、

あなたとわたしが一緒に

わたしの父とその連れ合いのところへ行きましょう。

弟よ、二人はあなたを自分の命と同じように愛している。

「ココニ、「ヤコブ」が終わり、「預言者たち」が始まる。」

〔註釈〕

- (1) 題材は「創世記」の二十一章一節～十九節の記述が対象である。
- (2) 「慈しみの油」は神がアダムに約束した物語を示唆する。種本は「ニコデモ福音書」にある。これはアダムの死と十字架とを結びつけるもので、セツが苦しむ臨終のアダムに「慈しみの油」を楽園の命の木からの三つの種の形で与える。アダムの口に入れた種は三本の杖（つまり、枝を生じさせた。この象徴はアブラハム・モーゼ・ダビデ・ソロモンと十字架伝説に現れる。ウエクフィールドの劇作家はこの話を第四番、第六番、第十番演目でそれぞれ取り上げている。(Notes for Noach (I. 66), p. 448.)
- (3) 「創世記(五〇五)」によれば、アダムは「三百年」でなく「九百年」生きた。
- (4) 「申命記(二十九〇二三)」によれば、その全土を硫黄と塩で焼けたのだらせたのは、「ソドム、ゴモラ、アドマ、ツェボイム」の四都市である。
- (5) 「幻想の地」は「創世記(二十一〇二)」の「モリヤの地」。「モリヤ」人が神を見る場所、神が見られる場所(？)七十人訳「高い所にある

地」、ウルガータ「顕現の地」、シリア語訳「アモリ人の地」、どれもエルサレム神殿の場所ではない、またサマリヤ人の伝承がイサク奉献の地をゲリジム山に置き換えている。」(『旧約新約聖書大辞典』、教文館、一九八九年。) つまるところ、奉献の場所は同定できない。(Henry Wansbrough gen. ed. *The New Jerusalem Bible*, Standard Edition, London, 1985.)

- (6) 二人で一行の韻律を完成する台詞回わしの約束で、この劇的な効果はエリザベス朝時代の舞台で著しい。
- (7) 「イサク」と「ヤコブ」の対象としている聖書の箇所は「創世記(二十八章)三十三章十三節」である。
- (8) イサクの目が見えぬことが暗示される。ヤコブがエサウと同じ「におい」であるといサクが感じるのは劇的皮肉となる。
- (9) エサウは家督相続権を一杯のあつものでヤコブに譲ってしまう件が「創世記(二十五章二十一節)三十四節」にある。「エサウ」には「目先の利益に目がくらむ人、騙されやすい人」という比喩的な意味がある。
- (10) ヘト族の者、つまり、カナンの地の女のこと。「創世記(二十七、四十二)」を参照。次の演目の「ヤコブ」には、ハランの地に滞在したヤコブがレアと最初に、次にはラケルと結婚したことが省かれている。「創世記(二十九、三十一章)」を参照。
- (11) 神の啓示が夢で明らかになる一例。
- (12) 「聖なる教会」という語句でヤコブがキリストの予型と解釈される。(Notes for *Jacob*, cf. Matt. xvi. 18.)